

# 第1章 プラスチック加飾技術概要

## 1 プラスチック加飾について

### 1.1 プラスチック加飾とは

図1-1に示すように、「器物の表面にさまざまな工芸技法を用いて装飾を加えること」は「加飾」と言われ、例えば、縄文式土器や工芸品の蒔絵などのように加飾は昔から行われていたが、プラスチックにおいても、消費者の感性に訴えて、買っていただける商品をつくるための手段として、最近特に関心が高くなっている。何らかの表面層を付与して見栄えを向上させる「狭義の加飾」と特別な表面層を付与せずに、見栄えを向上させる技術を含めた「広義の加飾」があるが、本誌では「広義の加飾」を「加飾」として扱う。



図1-1 加飾とは

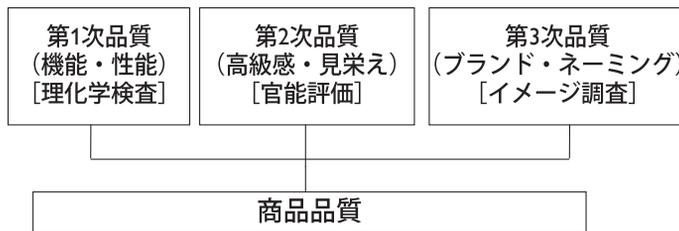
### 1.2 プラスチック加飾の背景となる感性工学とCMF

プラスチックの加飾技術の説明に先立って、本技術の背景となる「感性工学」と「CMF (Color/Material/Finish)」について、若干説明をする。

感性を生かしたものづくり、感性に訴えるものづくりを対象とした学問として、「感性工学」があり、早稲田大学の長澤教授等が研究をされている<sup>1-1)</sup>。

図1-2は感性工学からみた商品品質を示す。商品の品質は、理化学検査で計測できる第1

### 1. 商品の品質



### 2. 現在社会で求められる商品



### 3. 感性工学 (Kansei Engineering) 早稲田大学の長澤教授などが研究 感性を生かしたものづくり、感性に訴えるものづくりのための工学 (シーエムシー出版「プラスチック加飾技術の最新動向」 p.16~27)

図 1-2 商品品質と感性工学

次品質（機能・性能）、官能評価で評価できる第2次品質（高級感・見栄え）、イメージ調査で評価できる第3次品質（ブランド・ネーミング）から成り立っている。

最近の技術向上はめざましく、プラスチックを用いた商品に限らず、ほとんどすべての商品で各社の商品に第1次品質（機能・性能）の差は少なくなり、かつ市場には豊富に商品がある時代になって、第1次品質を求めるより、第2次品質（高級感・見栄え）、さらには第3次品質（ブランド・ネーミング）を重視して商品を購入する傾向が強くなっている。これらの傾向は商品購入の中心層である若者で特に顕著であると言われているが、シニア世代でもその傾向が見られる。

感性による選択の基準となる快適性には個人的な基準はあっても、明確な社会的基準はないが、それぞれの時期にその時期の方向性があり、これを如何に把握するかが商品開発上のポイントであると言われている。

「CMF」とは、モノの表面を構成する、大切な3つの要素である Color（色）、Material（素材）、Finish（加工、仕上げ）のことで、製品のデザインにおいて欠かすことのできないもので、加飾製品はこのCMFに基づいてデザインされると言える。

## 1.3 プラスチックへの加飾の意義と課題

図1-3はプラスチック加飾の意義をまとめたものである。プラスチックは優れた特性に加えて、賦形の容易性、軽量性等に優れた素晴らしい材料であるが、プラスチック成形品は通常の一次成形のままでは、安っぽく見える、冷たい感じがするなどの課題があり、これ

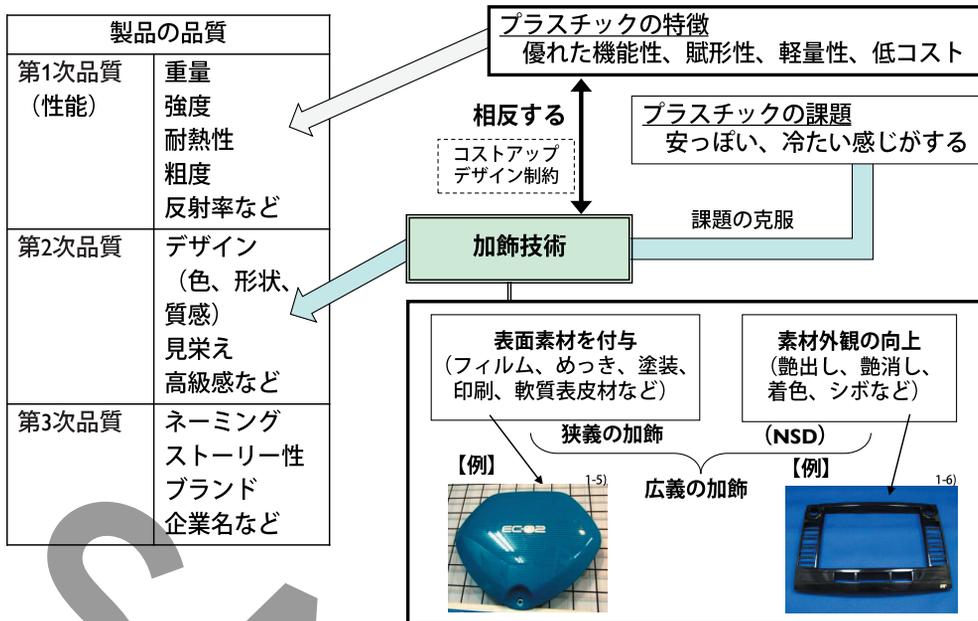


図1-3 プラスチック製品への加飾の意義

は質感の不足に由来する。質感のある他の素材を付与する、あるいは成形品の外観品質の向上を行うことによって、プラスチックの本来の特徴である優れた機能性、賦形性、軽量性と相まって、第2次品質の中の視覚的品質（見栄え、外観）のよい、感性に訴える商品が得られる。ただ、加飾は一般的にはコストアップを伴い、ケースによってはデザインを制約する可能性があり、これはプラスチック本来の持つ特徴と相反することになる。これらを念頭に置いて、コストアップに見合うあるいはそれ以上の価値を付与することを考慮して加飾を行うことが必要である。

## 1.4 プラスチック加飾の位置づけ

### 1.4.1 見栄え、高質感、高級、高品質

加飾において、見栄え、質感、高級の言葉がよく使われる。これらは、個人の価値判断によるもので、同一のものを見ても、個人でその感じ方が異なる。

図1-4は品質の構成要素と見栄え、高質感、高級、高品質を加飾との関係で、筆者の見解として、まとめたものである。

筆者は、“基本的な加飾”は、第2次品質の中の“視覚的品質”に優れたもので、見栄えのよいものを示し、視覚的品質の他に触覚的品質を加えたものが“高質感（質感が高い）”で、これを加えたものが“拡大解釈した加飾”を示すものと考えている。“高級（感）”は、さらに他の第2次品質も高く、ケースによっては第3次品質も高いものを示すと解釈してい